

2024年2月期 第1四半期

決算説明会

2023年7月11日



イオンフィナンシャルサービス

証券コード 8570(東証プライム・その他金融)

1

2023年度 1Q決算概要

2

重点実施事項

3

業績予想及び配当予想

Appendix

1 2023年度 1Q決算概要

決算サマリ

(1) 取扱高の拡大

国内ではクレジットカードを中心に業容の拡大により増収
海外では3エリアとも営業収益は過去最高となり、国際事業で2桁増収

(2) 営業債権残高の拡大

国内では利用者拡大によりキャッシング残高が底打ち反転し、拡大フェーズへ移行
海外では中華圏を中心に債権を拡大 タイなどでは審査厳格化により、債権残高の増加は一服

(3) 貸倒関連費用が増加

国内では費用増も、営業債権残高比では横ばい
海外では前年同期の特殊要因に加え、物価高騰による支払負荷の増加により回収率が低下

6月1日にイオンクレジットサービスと合併

経営資源の最適配分、意思決定の迅速化、グループシナジー最大化に向け

今後も国内事業の再編を進める

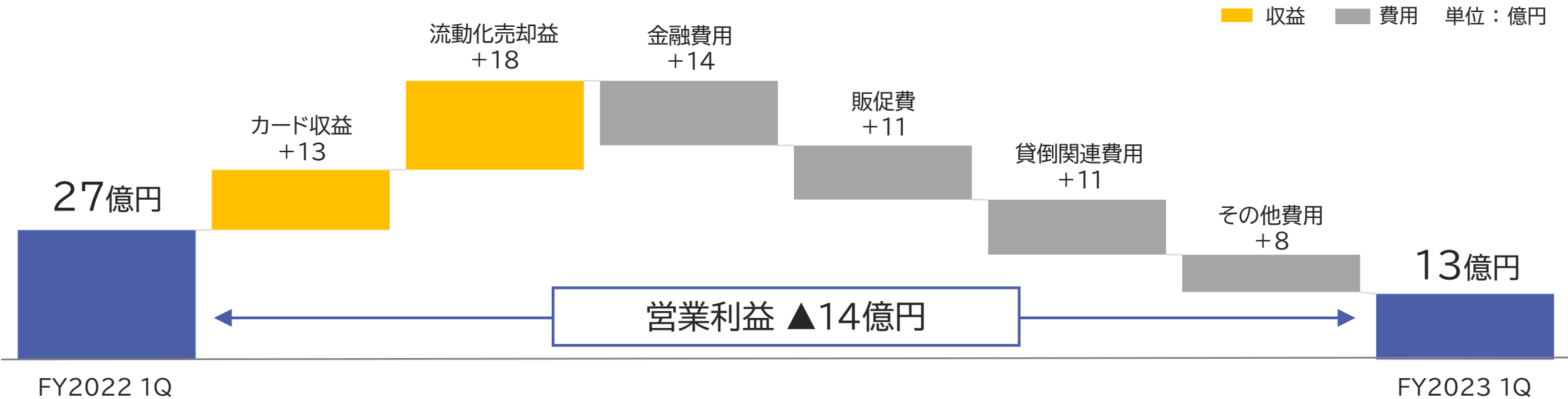
2024年2月期 1Q 連結業績ハイライト

- 国内は銀行業における運用商品の入替に伴う金融費用や貸倒関連費用の増加により減益
- 海外は主に前期の特殊要因により減益となっており、おおよそ計画通りに推移

	連結						23年度通期 連結見通し	進捗率
	YoY		国内		国際			
営業収益	1,166 億円	109 %	713 億円	105 %	453 億円	116 %	4,800 億円	24 %
営業利益	91 億円	60 %	13 億円	51 %	81 億円	63 %	610 億円	15 %
経常利益	95 億円	59 %	—	—	—	—	610 億円	16 %
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	35 億円	45 %	—	—	—	—	270 億円	13 %

[国内] 営業利益 前期差内訳

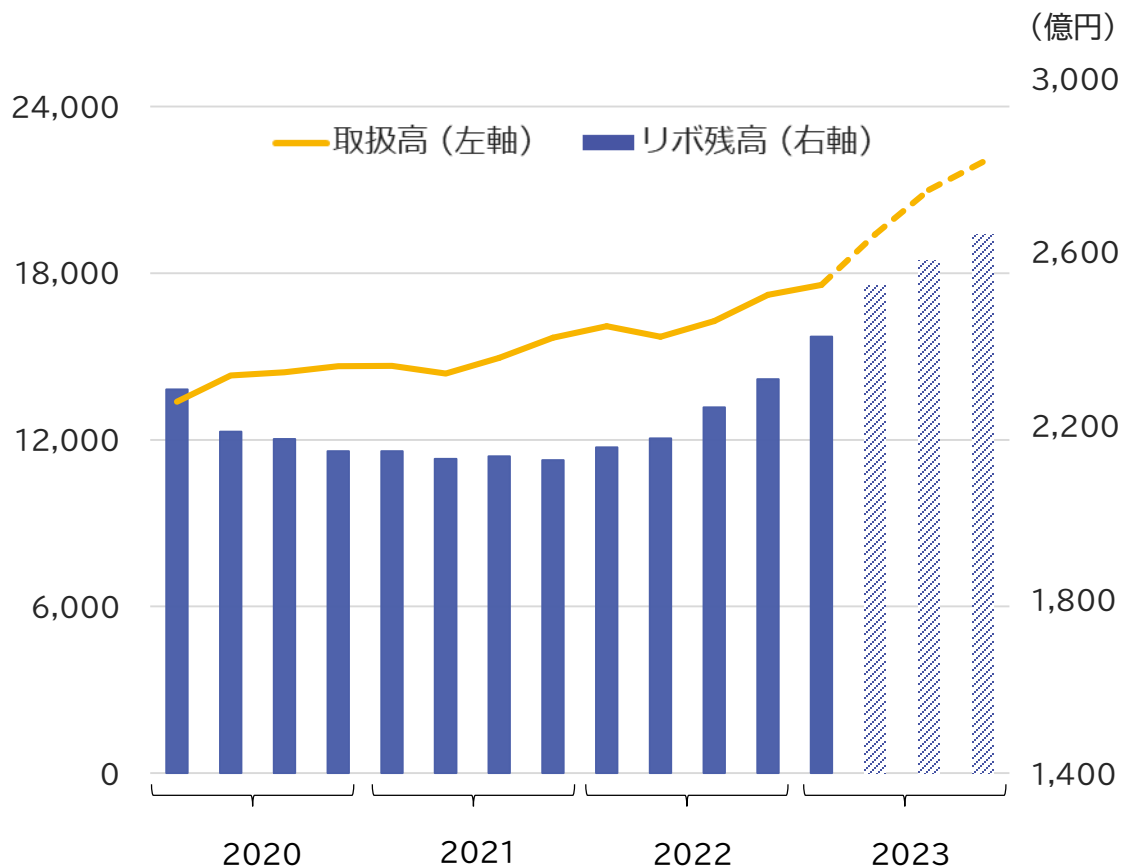
- クレジットカードを中心に業容が拡大も、銀行業における有価証券の入替実施、顧客獲得に向けた販促、債権残高の拡大に伴う貸倒関連費用増加により減益



主な変動要因	[営業収益]		[営業費用]	
	項目	金額	項目	金額
	・カード収益	+13億円	・金融費用	+14億円 (有価証券の入替+11億円、外貨商品の利払+3億円)
	(包括購入あっせん収益+10億円、融資収益+3億円)		・販促費	+11億円 (ポイント費用+25億円、広告宣伝費▲14億円)
	・流動化売却益	+18億円	・貸倒関連費用	+11億円 (債権残高拡大による影響)
	(前年1Qは流動化未実施)		・その他費用	+8億円 (システム運営費+6億円、カード発行費+2億円)

[国内] ショッピング取扱高および債権残高推移

- ・ ショッピング取扱高は物価高による節約志向も見られるが、利用者は順調に拡大
- ・ リボ残高は利用者の拡大により、業界平均を上回る伸び率で増加



ショッピング取扱高

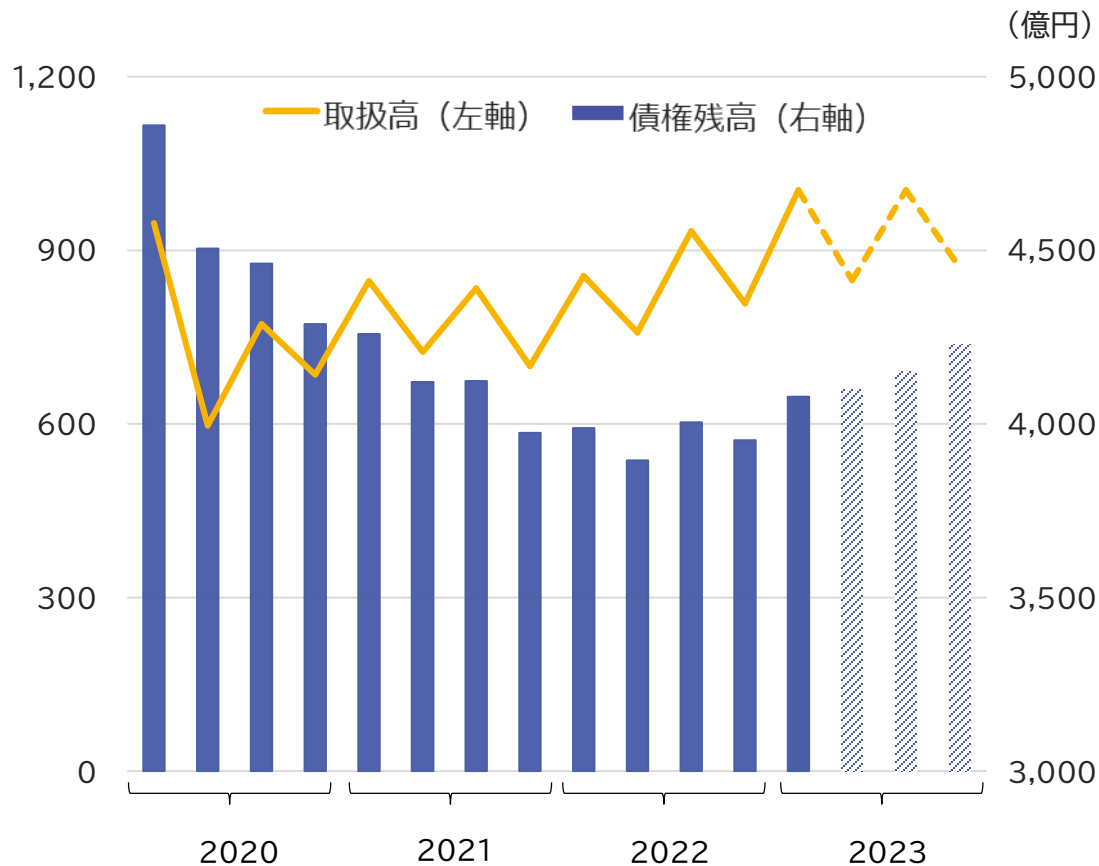
- 1Q実績:1兆7,572億円 (YoY 109%)
- プレミアム消費のニーズ拡大と、物価高騰に伴う日常消費に対する節約志向の二極化傾向が見られるも、公共料金等の支払登録の推進により利用者数は継続して増加

リボ残高

- 1Q実績:2,406億円 (YoY 112% / 期首差+97億円)
- リボ払い変更後の支払回数・総支払見込額がわかる”返済シミュレーション機能”を導入。
お客さまの安心感につながり、利用者が増加

[国内] キャッシング取扱高および債権残高推移

- 新規や休眠会員へのアプローチにより利用者が2桁増となり、残高も前年同期比プラスに転換



キャッシング取扱高

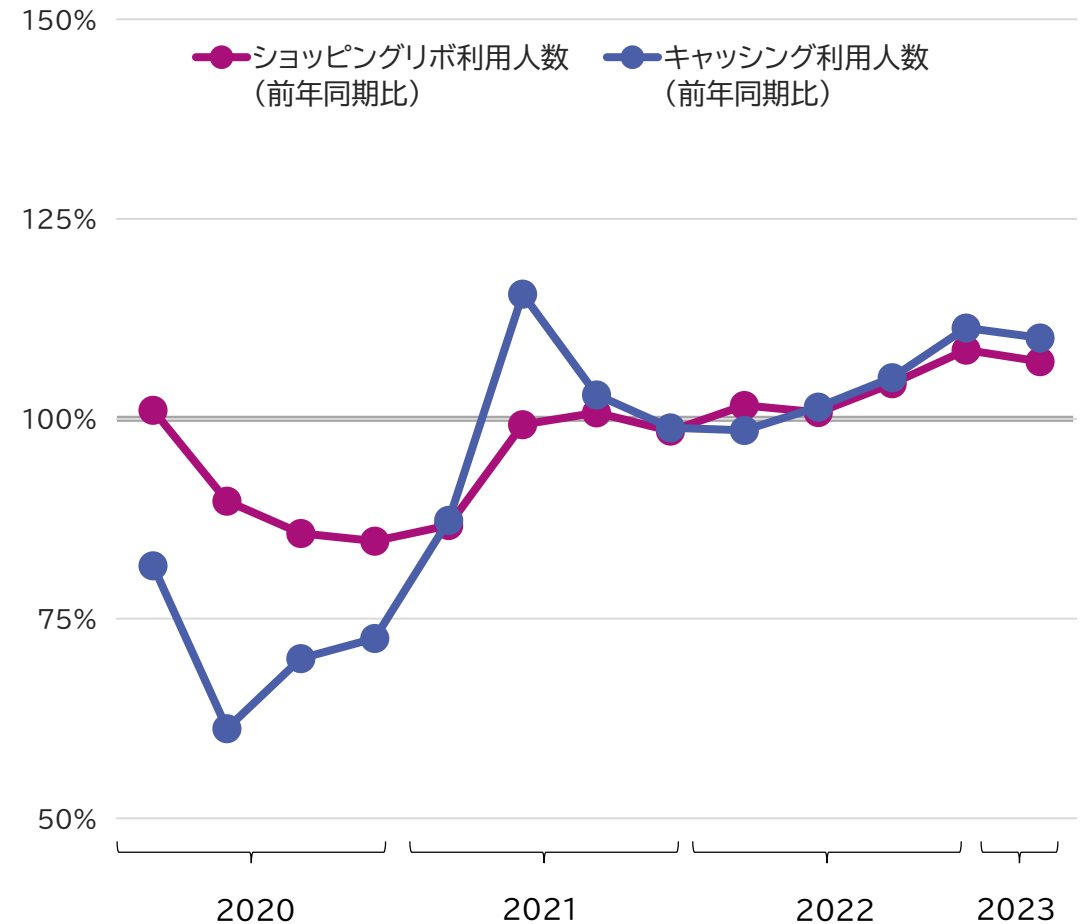
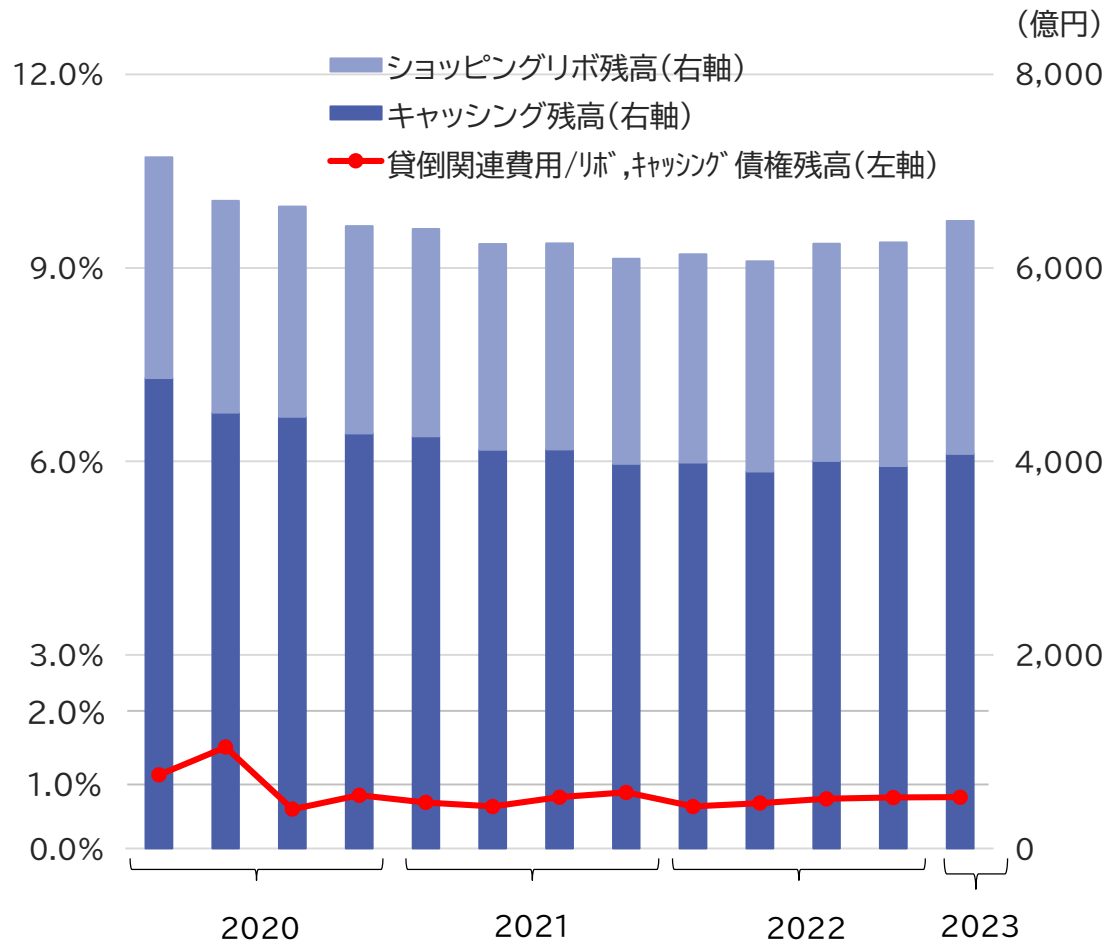
- 1Q実績:1,004億円 (YoY 117%)
- 個人資金需要の回復に加え、コロナ禍で引き締めていた与信枠の適正化や、休眠会員へのアプローチが奏功

キャッシング残高

- 1Q実績:4,078億円 (YoY 102% / 期首差+125億円)
- 取扱高の増加に加え、キャッシング返済方法の変更 (一括返済からリボへの変更)をオンライン上で行えるようにしたことで、お客さまの利便性が向上し、残高は拡大トレンドに転換

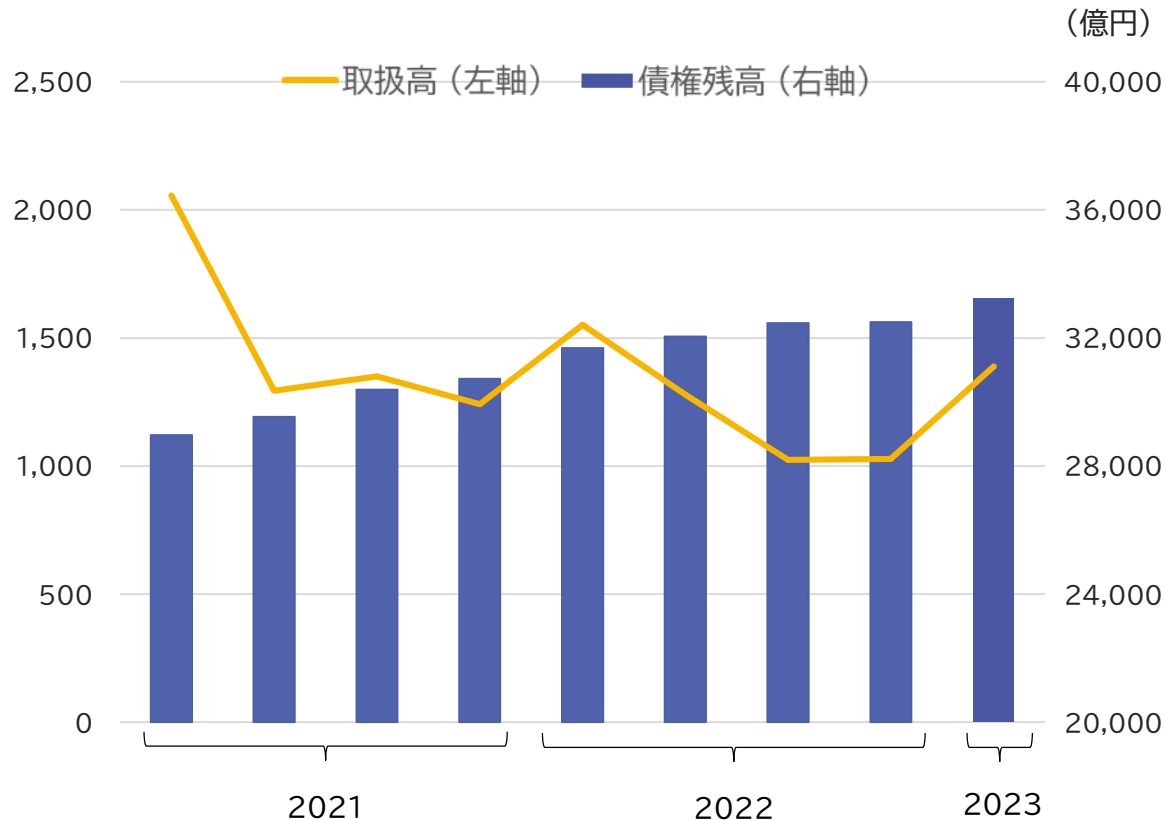
[国内] リボ、キャッシング債権および貸倒関連費用の状況

- ・ 債権残高に対する貸倒関連費用の比率は1%未満で低位安定
- ・ リボ、キャッシングともに利用人数増に伴い債権残高が増加



[国内] 住宅ローン取扱高および債権残高推移

- ・ セレクトクラブの特典改訂により事前申込件数は2桁増加。残高は着実に増加。



住宅ローン取扱高

- 1Q実績: 1,388億円 (YoY 90%)
- 金利環境の変化に伴い、借換案件は減少
新規案件の増加により、申込から実行まで長期化
3月のイオンセレクトクラブ改訂に伴い、事前申込件数はYOYで20%以上増

住宅ローン残高(流動化前)

- 1Q実績: 3兆3,932億円 (期首差 + 730億円)
- 取扱高はYOYで減少も、残高は着実に積み上げ

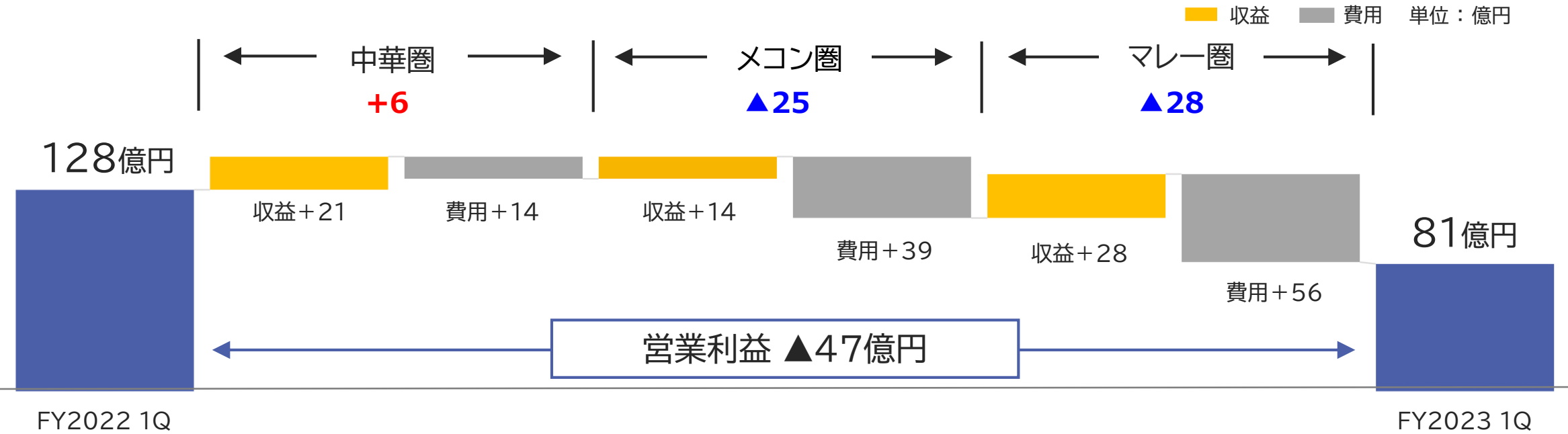
2024年2月期 1Q 国際事業 セグメント別業績ハイライト

- ・ 営業収益は3エリアとも増加も、貸倒関連費用の増加によりメコン圏とマレー圏で減益
- ・ 中華圏では訪日ニーズの取込みが奏功し、営業利益は1Q最高益を更新

	中華圏	YoY	メコン圏	YoY	マレー圏	YoY
営業収益	67 億円	146 %	216 億円	107 %	169 億円	120 %
営業利益	21 億円	141 %	27 億円	52 %	32 億円	54 %
<参考> 貸倒関連費用	11 億円	203 %	85 億円	148 %	52 億円	407 %

[国際] 営業利益前期差内訳

- 前期差マイナスの主な要因は、メコン圏とマレー圏の貸倒関連費用の増加



主な変動要因

[営業収益]	
・カードショッピング収益	+12億円
・融資収益	+7億円
[営業費用]	
・貸倒関連費用	+5億円
・人件費	+3億円

[営業収益]	
・カードショッピング収益	+3億円
・融資収益	+10億円
[営業費用]	
・貸倒関連費用	+27億円
・人件費	+3億円

[営業収益]	
・割賦収益	+17億円
・融資収益	+8億円
[営業費用]	
・貸倒関連費用	+39億円
・人件費	+7億円

[国際] 貸倒費用に関する外部環境の整理

物価・エネルギー価格高騰が家計を圧迫

- タイでは消費者物価指数が23ヶ月連続(23年7月時点)で上昇も、最低賃金は22年10月以降据置
- マレーシアでは1～3月の消費者信頼感指数が前期から6.1ポイント低下するなど消費者心理が悪化

政府による債務者保護施策の終了・縮小

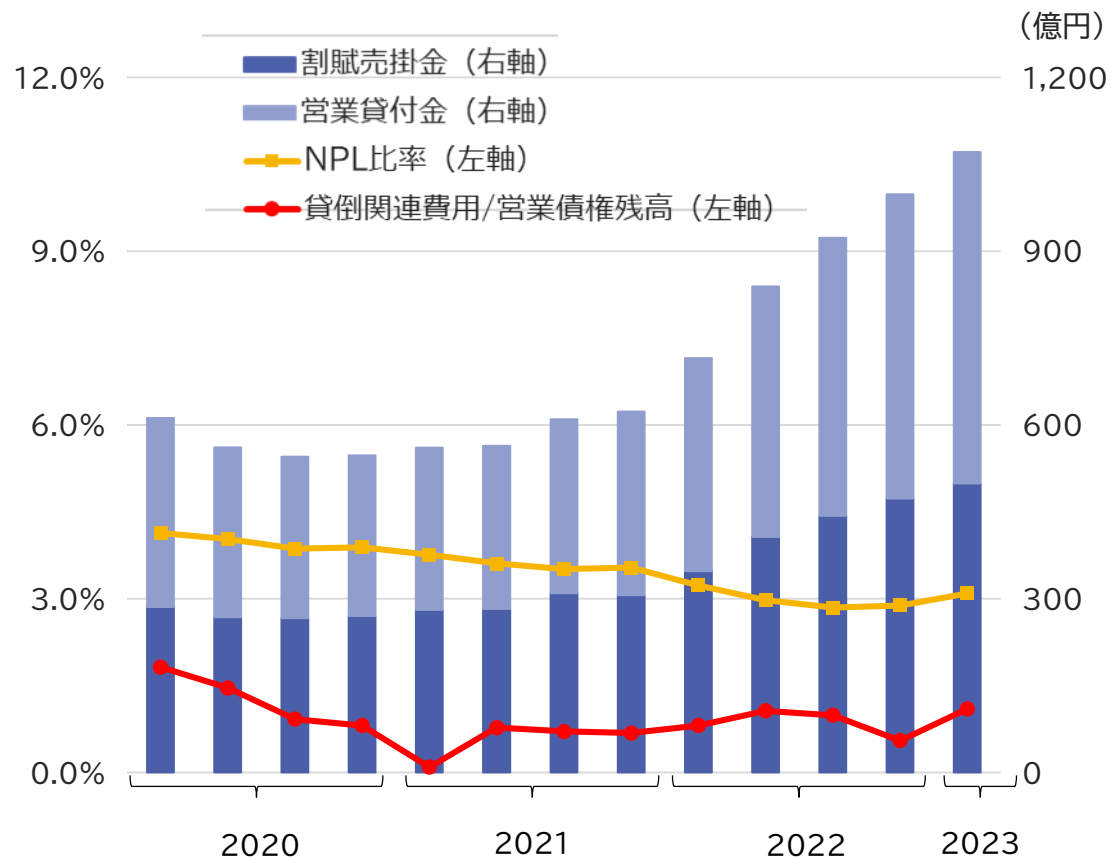
- マレーシアでは前年同期に年金引き出しプログラムを実施
- タイでのミニマムペイメントに対する猶予施策の縮小



中・低所得者層の支払負担が増加

[国際] ACSアジア(香港)の債権残高およびNPL推移

- 債権残高は拡大傾向が継続
- 貸倒関連費用は増加も、NPL比率や債権残高に対する比率は安定



貸倒関連費用への影響要因

[概要 2022 1Q]

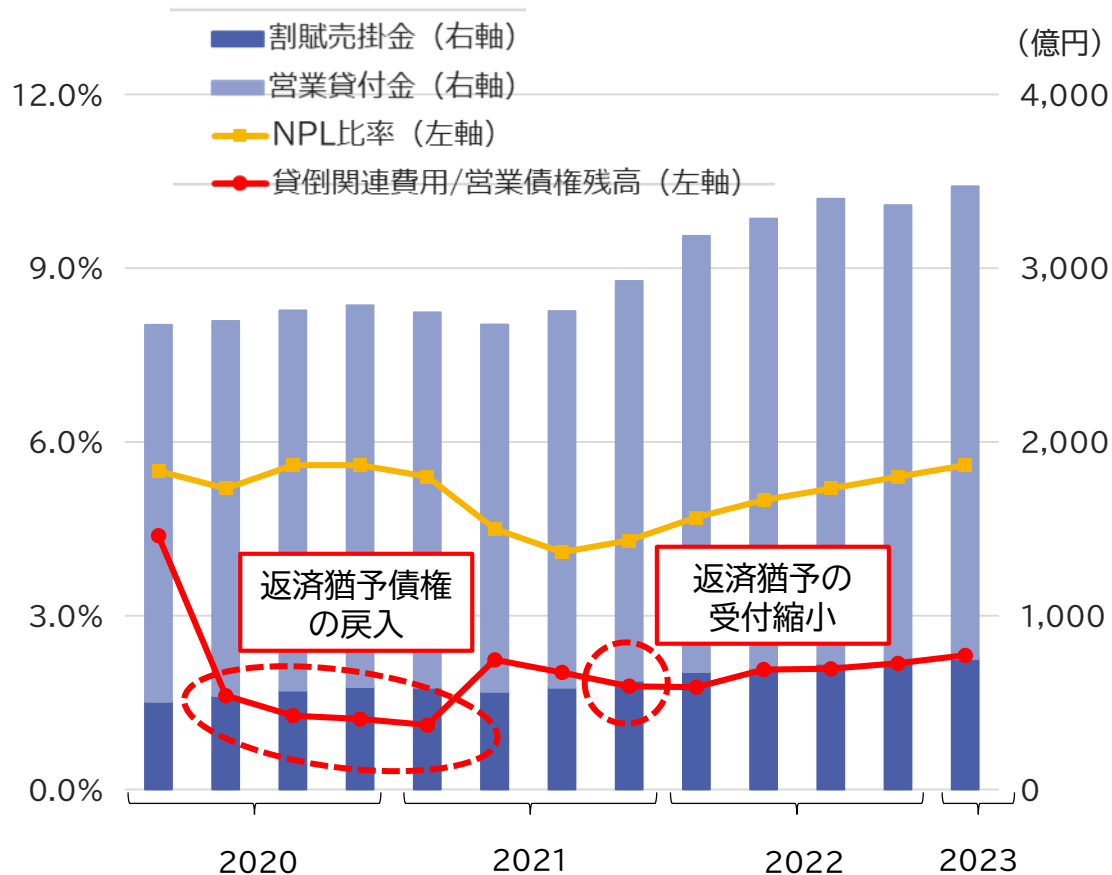
- ▷ 延滞債権残高の減少により、営業債権残高に占める貸倒関連費用の割合は低位で推移

[概要 2023 1Q]

- ▷ 営業債権残高 YoY150% 期首差+73億円
- ▷ 前年度末のECL(予測信用損失)見直しにより貸倒関連費用は増加も、営業債権残高に占める貸倒関連費用の割合は引き続き低位で推移

[国際] AEONタナシンサップ(タイ)の債権残高およびNPL推移

- 政府による債務者保護施策の縮小に加え、景気低迷や物価上昇によりNPL比率は上昇傾向
- 審査厳格化により、債権残高の増加は一服



貸倒関連費用への影響要因

[概要 2022 1Q]

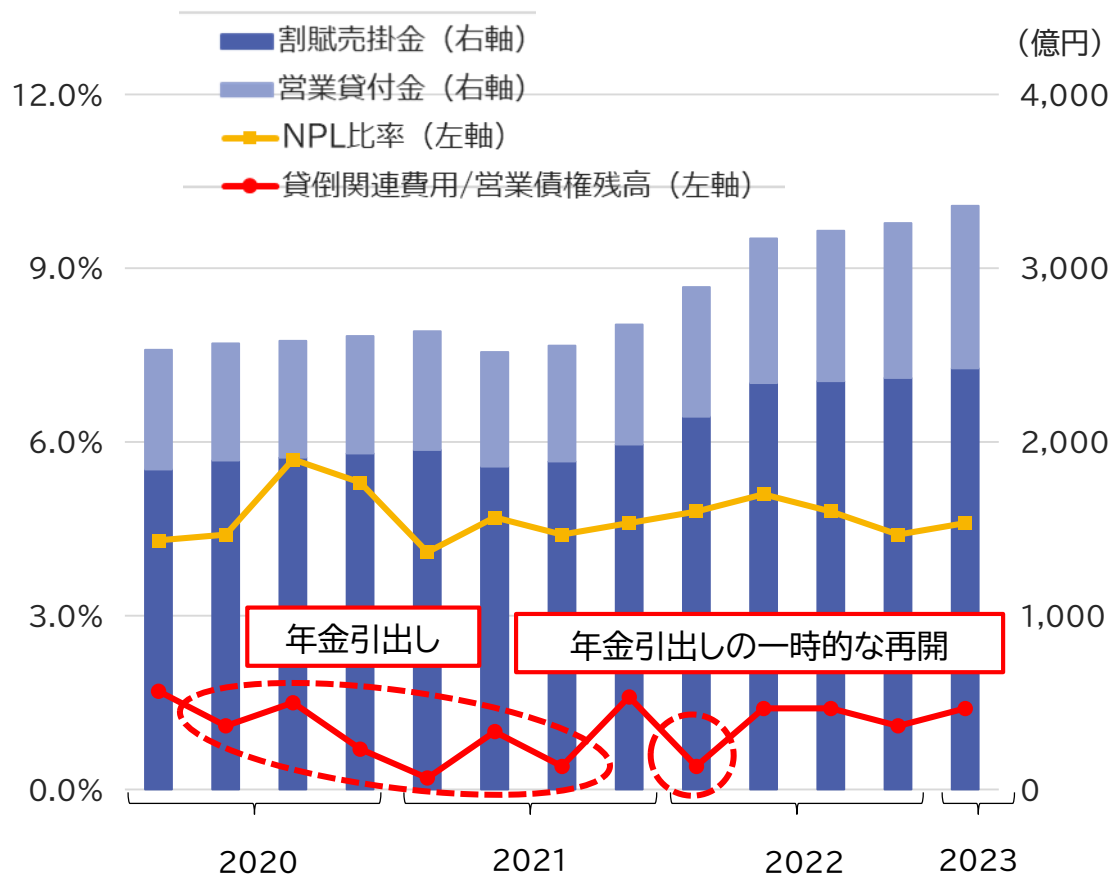
- ▷ 正常債権残高が拡大
- ▷ 一方、返済猶予債権に対する追加引当金の取崩により、営業債権残高に占める貸倒関連費用の割合は横ばい

[概要 2023 1Q]

- ▷ 営業債権残高 YoY109% 期首差+109億円
- ▷ 政府の債務者保護施策に伴う返済猶予が縮小、物価高による返済負担の増加に加え、4年ぶりに行動制限のないソクラン休暇による消費の急拡大により、NPL比率が上昇

[国際] ACSマレーシアの債権残高およびNPL推移

- 前期1Qは特殊要因により、貸倒関連費用が大幅改善
- 当期は債権残高に対する貸倒関連費用が増加傾向であるものの、一定範囲内でコントロール



貸倒関連費用への影響要因

[概要 2022 1Q]

- ▷ 政府の年金引出しの一時的再開等による引当金の取崩しにより、費用が大幅縮小

[概要 2023 1Q]

- ▷ 営業債権残高 YoY116% 期首差+97億円
- ▷ ハリラヤ休暇に伴う消費急拡大後に回収率が悪化し、延滞債権残高が増加
- ▷ ECL(予測信用損失)算出の精緻化により、個品割賦債権に対する引当率が改善

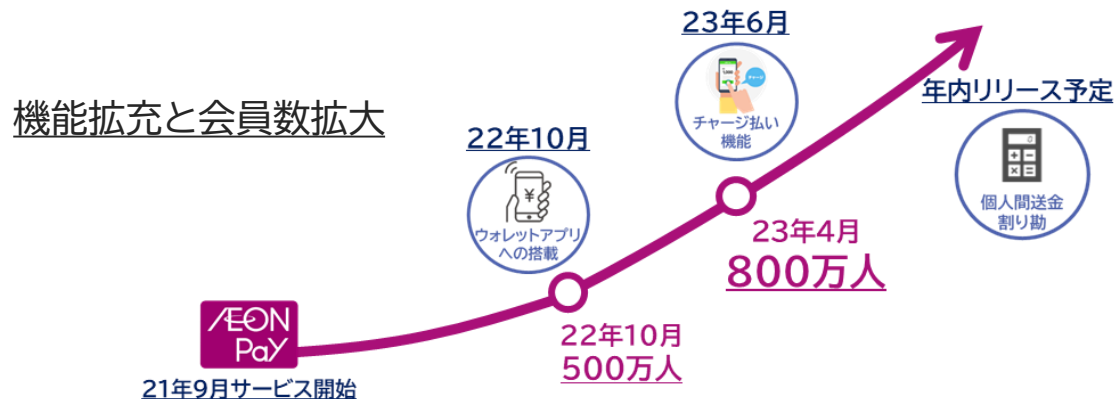
2 重点实施事項

[国内] ID数の拡大 (AEON Pay)

- 1Qのカード会員獲得実績は47万人 (YoY 101%)
- AEON Pay会員数は836万人に拡大、機能拡充等により各種サービスへのクロスセルを図る

AEON Pay 会員の拡大

- 6月14日よりイオンカード払いに加え、銀行口座等から入手可能なチャージ払い機能を追加
- AEON Payをきっかけとした、新規顧客獲得および各種サービスへのアプローチを図る



[国内] ID数の拡大（イオングループとの連携強化）

- ・お客さま属性や来店店舗に応じ、効果的なチャネルの活用や募集体制を推進

ウエルシアとの提携カード推進

- 6月より独自特典を開始した「ウエルシアカード」をはじめ、提携先とのアライアンス強化による獲得推進



ウエルシアメンバーが
800万人を突破

An advertisement for the Welcia Card. On the left is a blue and grey card with a gold chip, the 'welcia members card' logo, and the AEON and JCB logos. Below the card, it says '入会金・年会費 無料' (No application fee, no annual fee). To the right of the card, the text reads 'ウエルシアカード' (Welcia Card), 'ウエルシアグループの対象店舗で WAON POINT がダブルでたまる!' (At Welcia Group's target stores, WAON POINT is doubled!), and '最大 2.5% ポイント還元' (Maximum 2.5% point redemption). Below this, it shows 'カードご提示で 1%*' (1%* with card presentation) and 'クレジット払いで 1.5%' (1.5% with credit payment). At the bottom, it says '*1 ウエルシアホールディングスによる特典提供 ※適用条件あり ※一部対象外商品がございます' (*1 Benefit provided by Welcia Holdings, subject to terms and conditions, some items excluded) and 'お申込みはこちら>>' (Apply here >>).

[国内] ID数の拡大（イオングループとの連携強化）

- 7月10日より東京23区の一部や千葉市などで本格稼働を開始したイオングループの新ネットスーパー“Green Beans”の会員獲得を共同して推進



[国内] ショッピング取扱高の拡大

- オンライン上で即時発行可能なバーチャルカードの促進等による初期稼働率の向上や、ゴールド会員化を推進し、カードの入会から利用につなげる施策を強化

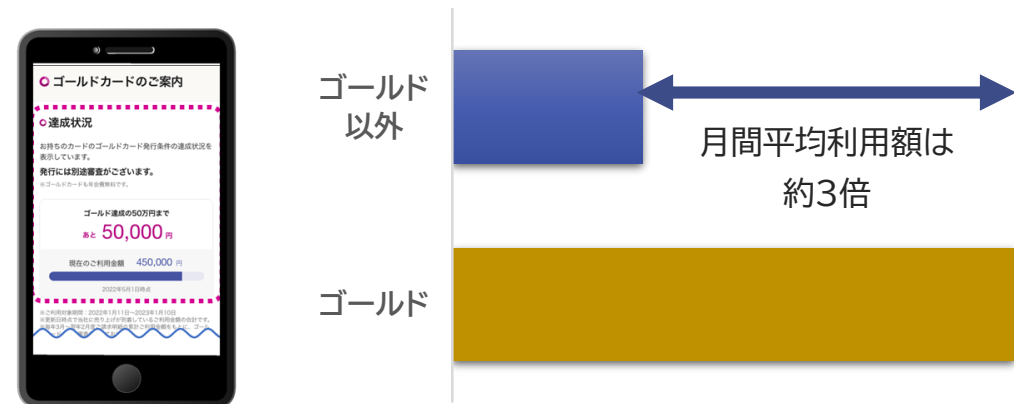
初期稼働向上に向けた取組

- 入会初期にご利用のお客さまは、継続利用率が高くアプリを通じた初期稼働フォローを推進
- 店頭でのバーチャルカード申込率は7割に拡大
即時利用をきっかけに、メインカード化につなげる



ゴールドカード会員化の推進

- ゴールドカードの切替基準を公表し、達成状況をアプリ上で確認できる機能を追加
- 稼働率、利用金額ともに高い優良顧客化を図る

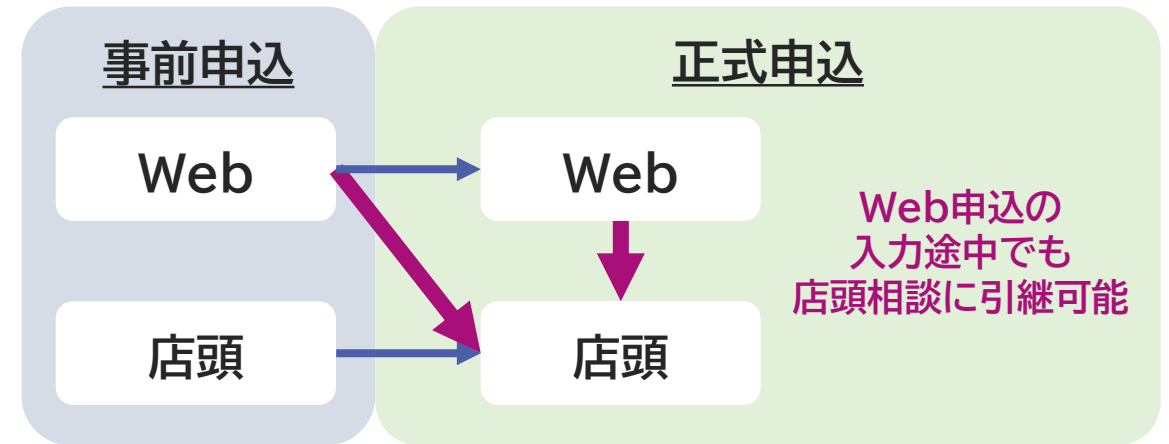


[国内] 住宅ローン取扱高の拡大

- オンラインでの利便性とリアル店舗の安心感をあわせもつイオン銀行の強みと、イオングループ独自の特典をお客さまに訴求

ネットの利便性とリアルの安心感

- 丁寧な説明や手続きサポートの実施により実行率の高い店頭相談を継続推進
- Webで事前申込したお客さまの、約7割が最終的に店頭での契約を選択



セレクトクラブ特典の訴求強化

- 住宅ローン付帯の特典によるお買い物割引額を可視化するシミュレーション機能を導入



Web上での割引シミュレーション機能を提供予定

[国際]与信・回収手法の高度化

- ・ お取引の段階ごとの手法高度化を図り、貸倒費用のコントロールを強化

申込

オンライン申込みへの対策

e-KYC活用による
本人確認の徹底



審査

外部信用情報が不足する層への
与信判断の適正化

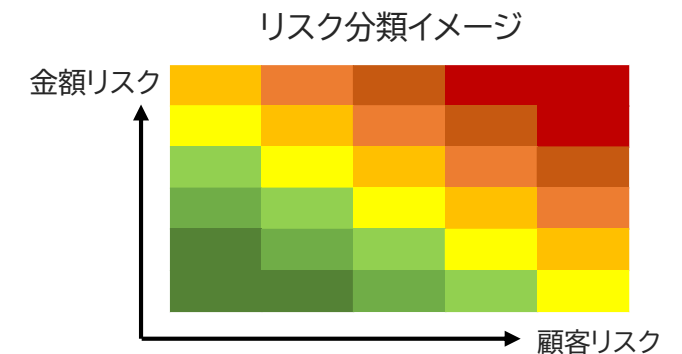
AI与信スコアリング導入による
与信精度の向上



債権回収

債権リスクに応じた
適時適切な体制整備

AI等を活用したリスク分類の精緻化
最適なリソース配分



[国際]収益拡大に向けた取り組み

- ・「オンライン化」と「訪日需要の取込み」により、新たな収益機会に繋げる

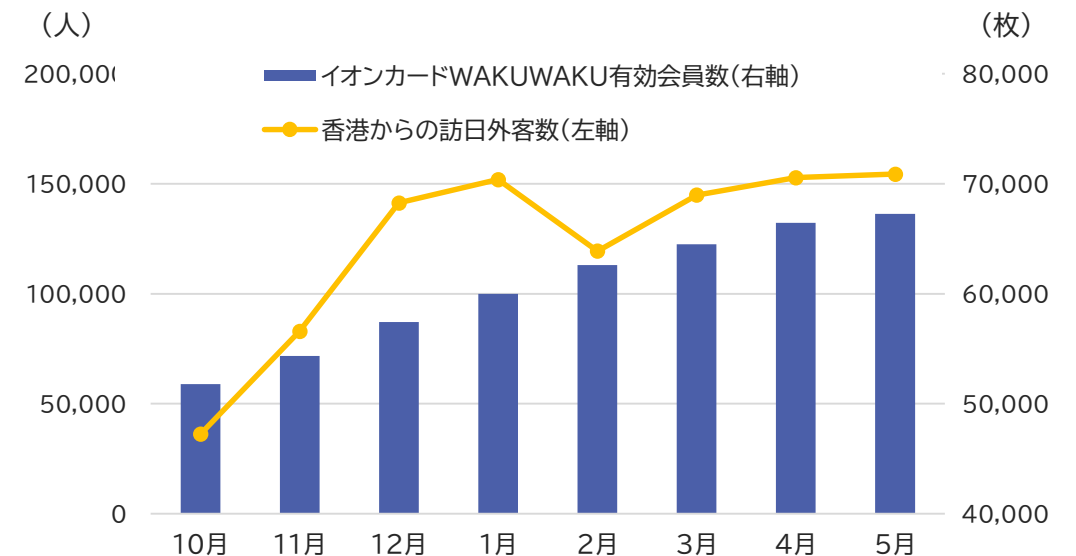
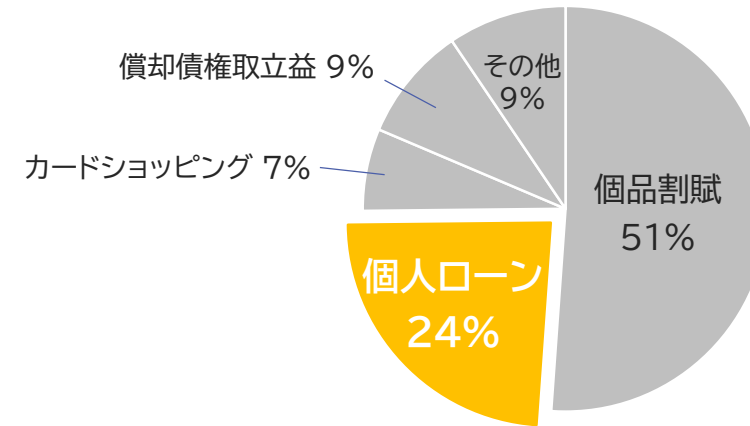
申込の完全オンライン化(マレーシア)

- 個人向けローンにおいて、申込～着金まで完全オンライン化を計画
主力事業のバイクローンに加え、個人ローン拡大を図る

訪日需要取り込みの強化(香港・タイ)

- 香港:訪日時のキャッシュバック特典等を付帯した「イオンカードWAKUWAKU」を継続推進
カードショッピング取扱高の約1割を占める
- タイ:訪日時の特典付帯カード「J-Premier Platinum Card」の販促を再強化

ACSM 1Q 営業収益:151億円

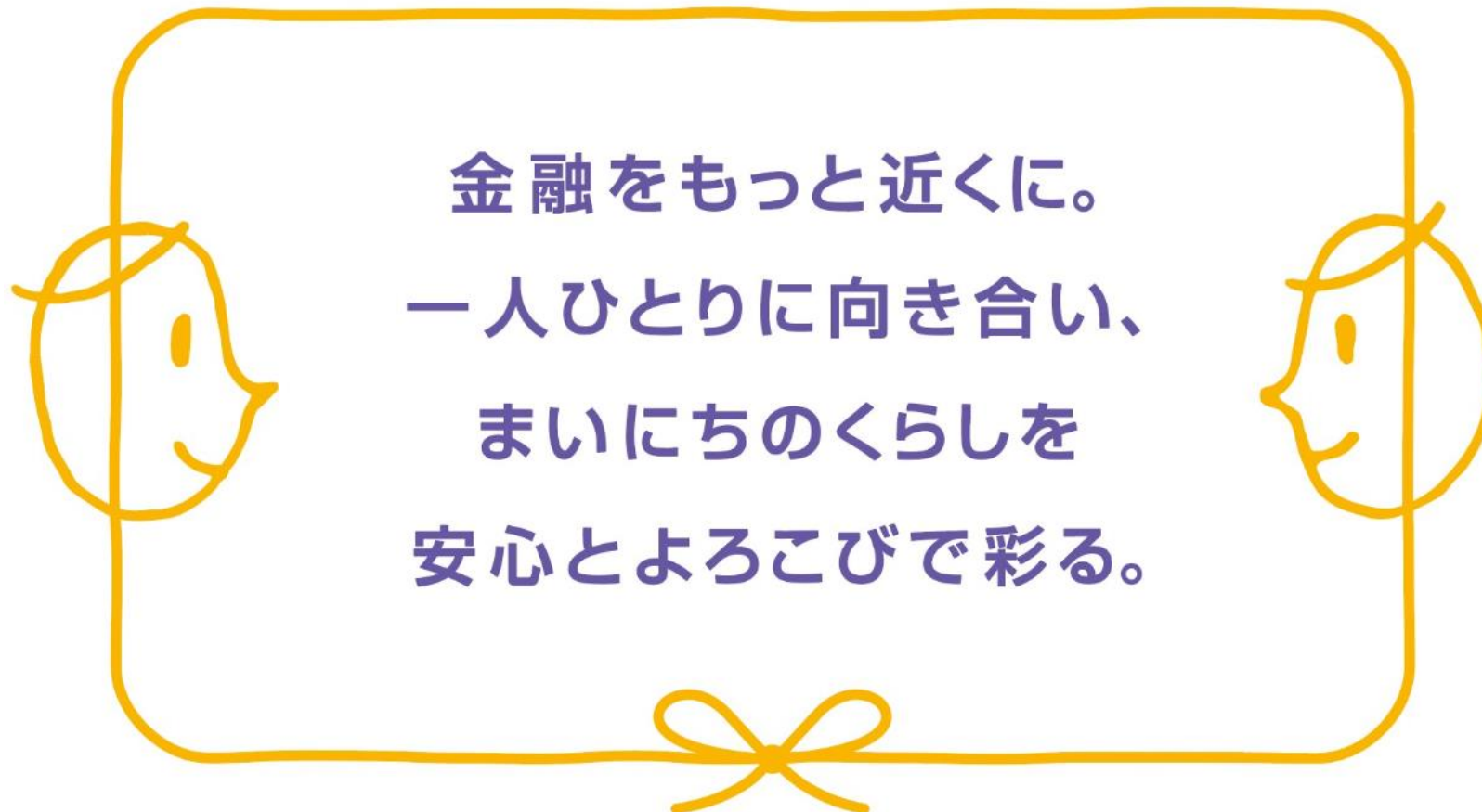


※訪日外客数:日本政府観光局HPより

パーパスの策定

- お客さまへの提供価値の最大化及び企業価値向上に向けた、AFSグループ共通の判断軸を策定

Our Purpose



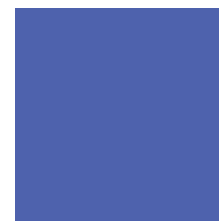
3

業績予想及び配当予想

2024年2月期 業績予想及び配当予想

- 業績予想及び配当予想は変更無し

	連結	YoY				
			国内	YoY	国際	YoY
営業収益	4,800 億円	106 %	2,900 億円	103 %	1,900 億円	112 %
営業利益	610 億円	104 %	190 億円	111 %	430 億円	101 %
経常利益	610 億円	99 %	1株あたり配当金		配当性向	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	270 億円	88 %	年間: 53 円	中間: 25 円 期末: 28 円	42.4 %	



Appendix

バランスシートの状況

(単位:億円)

	FY 2023			FY 2023	
	1Q実績	期首増減		1Q実績	期首増減
現金預け金	7,602	△ 823	預金	44,280	+300
営業貸付金	8,957	+504	買掛金	2,941	+385
銀行業における 貸出金	22,302	+694	有利子負債 (預金除く)	12,601	+495
割賦売掛金	18,859	+1,163	その他	2,509	△ 30
貸倒引当金	△ 1,309	△ 35	負債合計	62,333	+1,150
その他	11,414	△ 271	純資産合計	5,493	+81
資産合計	67,826	+1,232	負債及び 純資産合計	67,826	+1,232

セグメント別業績

(億円)	国内計			国際計				連結計
	※1	リテール	ソリューション	※1	中華圏	メソ圏	マレー圏	※2
営業収益	713	428	447	453	67	216	169	1,166
前期比	105%	104%	107%	116%	146%	107%	120%	109%
営業利益	13	0.7	17	81	21	27	32	91
前期比	51%	25%	69%	63%	141%	52%	54%	60%
営業利益率	2.0%	0.2%	3.9%	18.0%	31.9%	12.5%	19.5%	7.9%
前期差	▲2.1pt	▲0.6pt	▲2.1pt	▲15.0pt	▲1.0pt	▲13.2pt	▲24.1pt	▲6.4pt

(参考) 債権流動化による収益影響 18 億円 (前期差+18億円)

※1 国内計及び国際計は、各事業に属するセグメント間取引における相殺消去後の数値

※2 連結計は、本社・機能会社および連結消去額を含んだ数値

エリア別業容

単位:億円		取扱高	前期比	営業債権残高 (流動化前)	期首増減
国内	クレジットカード	18,577	110%	16,887	+959
	ショッピング	17,572	109%	12,808	+833
	キャッシング	1,004	117%	4,078	+125
	個品割賦	513	102%	7,295	+64
	住宅ローン	1,388	90%	33,932	+730
	その他	-	-	10,026	+10
	国内計	-	-	68,141	+1,765
国際	クレジットカード	1,346	124%	2,786	+112
	ショッピング	995	128%	1,399	+41
	キャッシング	350	114%	1,386	+71
	個品割賦	348	130%	2,598	+61
	パーソナルローン	475	129%	2,913	+110
	国際計	-	-	8,298	+284

海外上場3社 1Q業績（現地通貨）

		FY 2022	FY 2023	
		1Q実績	1Q実績	前年同期比
AEON CREDIT SERVICE (ASIA) HK\$' 000	Revenue	279,059	379,953	136%
	Profit before tax	98,234	117,458	119%
	Profit for the period	82,663	96,967	117%
AEON THANA SINSAP (THAILAND) BAHT' 000	Revenue	5,484,649	5,459,191	100%
	Profit before tax	1,449,645	804,849	56%
	Profit for the period	1,158,756	644,016	56%
AEON CREDIT SERVICE (M) Berhad RM' 000	Revenue	390,571	452,674	116%
	Profit before tax	215,535	131,914	61%
	Profit for the period	163,069	99,363	61%

海外上場3社 1Q業績（円換算）

		FY 2022	FY 2023		為替レート
		1Q実績	1Q実績	前年同期比	
AEON CREDIT SERVICE (ASIA)	営業収益	44億円	65億円	149%	<u>為替（円 / HKD）</u> ・ FY2022 Q1 : 15.80円 ・ FY2023 Q1 : 17.33円
	営業利益	15億円	20億円	131%	
	当期純利益	13億円	16億円	129%	
AEON THANA SINSAP (THAILAND)	営業収益	201億円	215億円	107%	<u>為替（円 / THB）</u> ・ FY2022 Q1 : 3.68円 ・ FY2023 Q1 : 3.94円
	営業利益	53億円	31億円	59%	
	当期純利益	42億円	25億円	60%	
AEON CREDIT SERVICE (M)Berhad	営業収益	112億円	137億円	122%	<u>為替（円 / MYR）</u> ・ FY2022 Q1 : 28.90円 ・ FY2023 Q1 : 30.32円
	営業利益	62億円	40億円	64%	
	当期純利益	47億円	30億円	64%	

国際事業の各種取扱高、債権残高の状況

(単位:億円)		中華圏(香港)		メコン圏(タイ)		マレー圏		国際事業	
			前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)
クレジット カード	取扱高	501	150%	701	112%	143	113%	1,346	124%
	債権残高	825	+266	1,723	+224	237	+23	2,786	+513
個品割賦	取扱高	-	-	54	192%	293	123%	348	130%
	債権残高	-	-	267	+35	2,331	+301	2,598	+337
個人ローン	取扱高	71	148%	249	108%	154	176%	475	129%
	債権残高	246	+89	1,729	+57	937	+189	2,913	+336
合計	取扱高	573	150%	1,005	114%	590	131%	2,169	126%
	債権残高	1,071	+356	3,720	+317	3,506	+514	8,298	+1,188

セグメント別貸倒及び国内利息返還損失引当金の状況

【貸倒引当金】

(億円)	国内計	リテール	ソリューション	国際計	中華圏	メソ圏	マレー圏	連結計
期首貸倒引当金残高	571	38	537	694	33	407	253	1,274
貸倒関連費用 (引当金繰入・損失)	51	▲ 3	54	149	11	85	52	201
貸倒償却額 (移管債権等含む)	43	0	42	123	6	67	49	166
期末貸倒引当金残高	579	34	549	720	38	425	256	1,309

※参考 国内子会社の期末残高
イオンクレジットサービス(※6/1以降イオンフィナンシャルサービス):371億円
イオン銀行:34億円、イオンカード外ファイナンス:84億円、イオン住宅ローンサービス:12億円

【利息返還損失引当金】

(億円)	FY2022 1Q実績	FY2023 1Q実績
期首残高	64	48
繰入額	-	-
利息返還額	7	8
期末残高	56	39